

平成24年度「逗子市学習状況調査」の分析結果（小学校）

〇はじめに

平成24年4月16日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内小学校5年生とし、国語、社会、算数、理科の4教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。また、併せて子どもたちの生活実態の質問紙調査も行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握しその改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

1 実施状況

- 調査実施日 平成24年4月16日
- 実施教科 教科に関する調査（国語、社会、算数、理科）
- 実施学校・学年・調査数 逗子市立小学校5年生 428名

2 逗子市の調査結果の概要（小学校5年生）

国語	<p>国語は、「書く能力」（1設問）の平均正答率が64.7%、「読む能力」（7設問）が75.7%、「言語についての知識・理解・技能」（15設問）が88.6%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「読む能力」については、文章を読んで短文を入れる段落の箇所を問う設問で正答率が46.7%となっており、段落と段落の関係を正しくとらえる部分で課題が残りました。また、「書く能力」については、資料を正しく読み取りわかったことを筋道立てて書く設問で、約2割の児童が整合性のある文章を書くことができず課題が残りました。基本的な言語事項に関しても、日常的にひらがな表記が多くなっている漢字は正答率が下がり、日常生活の影響もわかりました。</p>
社会	<p>社会は、「社会的な思考・判断・表現」（1設問）の平均正答率が88.8%、「観察・資料活用の技能」（4設問）が66.6%、「社内の事象についての知識・理解」（26設問）が81.4%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「社会的な事象についての知識・理解」では、神奈川県面積の規模や主な産業を問う設問でも、正答率が50%を下回り、市だけでなく神奈川県全体の面積や主な産業に対する理解で課題が残りました。これら2つの設問は共に2つのカテゴリを並列で尋ねるもので、2つの正確な知識を持っていないことがわかりました。他にも「衛生」ということが「きれいである」という意味として考え車がきれいに並べてあることを見たり、日常用語で「連絡をとりあう」ことを「話しあう」としたりと、日常生活を重視するが由の問題も出ていることがわかりました。また、「観察・資料活用の技能」では、地図記号の理解を問う設問で、約3分の1の児童が水田と畑の地図記号を取り違える等正確な知識が必要とされる事項に課題が残りました。</p>

算数	<p>算数は、「数学的な考え方」（5 設問）の平均正答率が 74.1%、「数量や図形についての技能」（11 設問）が 87.6%、「数量、図形についての知識・理解」が 71.2%と良好な結果でした。</p> <p>「数量、図形についての知識・理解」では、分配法則についての理解を問う設問では正答率が 50%台であり、分配法則の考え方ができていませんでした。そろばんを用いた小数%の表し方を問う設問においても正答率 50%台で正確な知識が定着していないことがわかりました。また、「数学的な考え方」でも 2つの数の関係を式に表す設問が同じく正答率 54.7%と立式することに課題が残りました。</p>
理科	<p>理科は、「科学的な思考・表現」（6 設問）の平均正答率が 66.5%、「観察・実験の技能」（5 設問）が 90.7%、「自然現象についての知識・理解」（25 設問）が 84.6%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「科学的な思考・表現」では、気温の変化を見てその日の天候を判断しその理由を問う設問では、理由として不十分な記述が目立ち、結果として正答率は 50%を切りました。また、氷になると体積が増えるという観察から「氷で冷やすと」も同様に考える傾向がある等、学びによる途中段階の知識の不確かさが出ることもわかりました。「科学的な思考・表現」では、観察した事象の説明において、何に注目して観察するのができていない等、課題が残りました。</p>

3 調査結果を踏まえた指導の改善

(1) 国語

書く能力	<p>自分の考えを述べるには、相手や目的に応じて根拠を述べることが求められます。資料から言えることを明確にし、どのような考えを述べるのかを明らかにさせることが大切です。そして、根拠と意見に矛盾がなければ、表現したいことが相手に伝わるという指導が求められます。さらに、言いたいことを伝えるための構成を考えさせ、効果的に記述させる表現方法を、書く過程に沿って指導していくことが必要です。</p>
読む能力	<p>文と文のつながりや、大きな段落の前後のつながりなど、まとまりを意識させることが必要です。そして、文章全体の構成をつかむ力を付けることが大切です。</p>
言語についての知識・理解・技能	<p>漢字の習得において、漢字がもつ意味を組み合わせることで熟語の意味を考えさせ、理解させることが大切です。また、日常的にひらがなで表記されるものも多く、漢字の意味について意識しながら覚える必要があります。</p>

(2) 社会

社会的な思考・判断・表現	<p>授業で学んだことや最近ニュースで流れたことなどをテーマに、クラスでの発表やグループになってのディスカッションの機会を設けることや、ある社会的事象についての分析の機会を設けることなどを通じて、原因・結果・（展望）といった項目を的確に見出し、自分の言葉で根拠に基づいた表現をすることが望まれます。こうした機会を単元の中に適切に設定していくことによって、児童の思考力・判断力・表現力の向上が期待されます。</p>
--------------	--

観察・資料活用の技能	与えられた資料や社会的事象を見て「そこから何がわかるのか」ということを大切にする必要があります。特にグラフや図については、作成する際に何らかの変化や特徴が資料から読み取れるよう意図されており、その資料は何を表すために作られたのかなど、本質的な分析を試みることによって、児童の思考力や判断力が養われると考えられます。
社会的事象についての知識・理解	授業での学習はもとより、日常生活においても社会的事象について触れる機会を増やすことで、知識・理解を深めていくことが大切です。児童の身の回りにはたくさんの社会的事象が存在しています。「なぜ」「どうして」を大切にすれば、生活しながらたくさんのお話を学ぶことができます。そして、日常生活で学んだこと、興味を持ったことについて、学校の授業を通じて知識・理解をさらに深めていくことが大切です。

(3) 算数

数学的な考え方	解答を書くということは自分の考えを人に伝え、表現する、ということです。問題や課題に対する自分の答え、考え方を発表することや、人の発表を聞いて、自分の考えを述べるのに何が足りなかったのか、どうすればわかってもらえるのかを考えていくように指導することが大切です。それが説明や証明の基礎につながります。
数量や図形についての技能	四則演算の優先順位に課題があります。()の中から計算すること、和や差の計算より積や商の計算を先に行うこと、などをルールとして教えるだけでなく、なぜそうする方が良いのかをわかるようにすることも大切です。
数量、図形についての知識・理解	そろばんは、位取りの考えや数を相対的に見ることの道具として理解することが大切です。整数・小数の仕組みの理解を視覚的にもうながすことが期待できます。そろばんの使い方を教えるだけでなく、十進法と結びつけながら理解を深めていく指導を行うことが望まれます。

(4) 理科

科学的な思考・表現	どんな現象が起きているのか理解し、その現象が起きている理由を正しく説明することは、自然現象についての関心を高め、意欲的な学習をしていく上で必要なことです。理解した知識や、現象に対して自分で思考した意見を、クラスで発表する場面をつくるのが大切です。
観察・実験についての技能	観察をしていく中で、器具を正しく使うことは正確なデータを収集したり、事故を防止したりするために重要です。また、うまくいかなかったことに対して、その原因をしっかりと振り返らせることも大切です。
自然現象についての知識・理解	日常的な現象を正しく説明するために、その原理に基づいて現象を観ることが大切です。金属や空気が熱せられるとどうなるのかは現象だけでなく、なぜふくらんだり縮んだりするのかを説明することが大切です。